



メッセージノート

在宅医療でご家族とのやり取りが必要になることがありますが、仕事などの関係で、ご自宅にはご家族が不在ということがよくあります。

そんな時には一冊のメッセージノートが役に

立ちます。

例えば、がんの患者さんで「今日は右の肩の痛みがあったので、痛み止めを飲みました」などのご家族からの報告があれば、その内容から痛み止めの内服量を調整できます。また、心不全の患者さんで、「最近体重が増えてきていますけど、前もこれで入院していたので、よくみてくださーい」などの報告があれば、心臓超音波などで精密検査をし

ていきます。診療に非常に有益な情報をもらい、それを診療に反映し、その結果をノートに記載してご家族に伝える——そうした情報共有によって、在宅療養での質を担保しているところがあります。

在宅医療では、このようにご家族が参加をし、ご本人の訴えを拾いあげ、ご本人の訴えを拾いあげ



松原 清二 医師

在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症専門医
・認知症サポート医

【まつばらホームクリニック】
☎ 042-439-1250
 西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)
 ■電話対応：午前9:00～午後6:00
 ■定休日：土日（祝日は診療）
 ■訪問地域：西東京市、東久留米・新座・練馬の一部

↑ 診療相談はこちらから

まつばらホームクリニック